

W a i - g a y a s a l o n ' s t r a c k s

第1回 大河ドラマ「風林火山」をめぐって 平成18年9月19日
講師／佐倉一徳さん NHK長野放送局企画総務部副部長 樋口 博さん 長野市産業振興部観光課課長

第2回 もっと楽しくて、元気な街づくりを 平成18年10月23日
講師／久米 えみさん ながのクラッセ会長 樋口 敦子さん ながのまちづくりカフェメンバー

第3回 スポーツによる街づくりを 平成18年11月21日
講師／鷺沢 幸一さん アスレながの事務局長 室賀 豊さん 長野市アイスホッケー協会理事

第4回 写真で見る長野の街並み 平成19年1月23日
講師／清水 隆史さん フォトグラファーほか 常盤 昭二さん CMディレクター

第5回 健康と美容を保つために 平成19年3月22日
講師／虎羽里(トラバリ)ゼーラさん アーユルヴェーダ・健康セラピスト

第6回 環境と街づくり ばていお大門・TOiGOの設計に参画して 平成19年4月23日
講師／竜野 泰一さん 株式会社エーシーエ設計 取締役副社長 [一級建築士]

第7回 信濃グランセローズの挑戦 平成19年5月21日
講師／木田 勇さん 信濃グランセローズ監督

第8回 スポーツマンシップの大切さ 平成19年8月29日
講師／荻原 健司さん 参議院議員・五輪金メダリスト

第9回 トウガラシの尽きせぬ魅力／「農」による地域活性を探る 平成19年10月24日
講師／松島 憲一さん 信州大学大学院農学研究科 准教授

第10回 命のバトンを渡す「ピオトーブ」／長野市をピオトーブネットワークシティに 平成19年11月14日
講師／松岡 保正さん 国立長野工業高等専門学校 環境都市工学科教授

第11回 簡単・おいしい・オシャレ／わたしのレシピができるまで 平成20年3月26日
講師／浜 このみさん クッキング・コーディネーター

第12回 あなたのからだは「蔡何年」ですか？ 平成20年7月14日
講師／角本 浩二さん バランスアドバイザー 長野県健康管理士会会長

第13回 アメリカ生活で感じたあれこれ 一変化に対して前向きになることの大切さ 平成20年8月19日
講師／針谷 友久さん 東京中小企業投資育成株式会社 主任(長野県担当)

第14回 市役所第一庁舎及び長野市民会館の在り方を考える 平成20年9月16日
講師／水野 守也さん 長野市総務部次長 兼庶務課長

第15回 長野バルセイロ 一優勝報告&JFL昇格への挑戦 平成20年10月29日
講師／バドゥ・ピエイラ監督、薩川了洋コーチ、真富信宏キャプテン

第16回 農業再生とブランド化 平成20年12月3日
講師／町田 良夫さん 社団法人長野市農業公社 常務理事

第17回 地上の楽園は馬の背にあり 平成21年2月18日
講師／中山 修さん 中山法律事務所 弁護士

第18回 循環備蓄型の農業の実践 ー宇宙のリズムにあった農業で一次産業の再生を試みるー 平成21年6月3日
講師／塩澤 研一さん (財)いのちの森文化財団副理事長 (株)水輪ナチュラルファーム代表取締役

第19回 郷土を包む「おやき」平成21年7月14日
講師／小出 陽子さん (同)ふきっ子のお八起 代表／信州おやきブランド化委員会 研究会リーダー

第20回 信州の伝統から生まれる食文化 ー漬物の新しい風ー 平成21年9月2日
講師／宮城 恵美子さん (有)宮城商店専務取締役／木の花屋

第21回 飯綱高原を、もっと住みよく、おもしろく！ 平成21年11月24日
講師／志村 雅由さん NPO法人 飯綱高原よこらしょ 代表理事

第22回 JFL昇格に向けて 平成22年3月17日
講師／薩川 了洋さん AC長野バルセイロ新監督

第23回 先人の知恵を受け継ぐ〜トチの実、雑穀、あんぼ〜 平成22年5月25日
講師／石沢 一男さん (有)田舎工房 代表取締役

第24回 3度目でつかんだオリンピック出場 平成22年7月28日
講師／新谷 志保美さん バンクーバーオリンピック代表 (株)竹村製作所 勤務

第25回 逃げないスケルトン ～夢と感動と勇気を～ 平成22年9月15日
講師／越 和宏さん スケルトン競技3大会オリンピック日本代表(株)ステックス所属

第26回 Go to J〜Jを長野に…いよいよ地域決勝大会!〜 平成22年10月25日
講師／鈴木 政一さん 長野バルセイロ・アスレチッククラブ強化本部長

第27回 グランドデザインの視点で「信州の食」を考える 平成22年11月30日
講師／千村 尚司さん 千村ブレイン代表・ソムリエ

第28回 ご利益のある町づくり 平成23年1月26日
講師／川崎 史郎さん フリーライター・市民記者ネット代表

第29回 防災と危機管理 平成23年6月1日
講師／安藤 長一さん 篠ノ井消防署署長、緊急消防援助隊長長野県隊長(第二次派遣隊)

第30回 江戸のエコロジスト ー茶 平成23年8月30日
講師／マブソン 青眼さん 俳人・比較文学者

第31回 Waを生かしたまちづくり 長野はもっと元気になる 平成23年9月28日
講師／井上 裕子さん 信濃毎日新聞社編集局地域活動部長・編集委員

第32回 メディアから見た長野 平成23年10月19日
講師／田幸 淳男さん 信越放送取締役相談役

第33回 旅の楽しさと長野の魅力で世界をむすぶ 平成24年1月31日
講師／飯室 織絵さん 観光客向けゲストハウス「1166」ブックパッカーズ」運営

第34回 神輿で街の元気を呼び覚ませ 平成24年2月28日
講師／相原 哲さん ながの町神輿連合会武睦会 会頭

第35回 長野とオリンピックレガシー 平成24年3月26日
講師／小林 亨さん 日本オリンピック委員会(JOC)勤務

第36回 すべてが一丸となって ながのの宝もの。をJへ 平成24年4月24日
講師／薩川 了洋さん AC長野バルセイロ監督

第37回 信州の野鳥たち 平成24年8月31日
講師／小宮山 義光さん 日本野鳥の会長野支部会員

第38回 見る 学ぶ 体験する 自然農法 平成24年9月27日
講師／塩澤 研一さん 農業生産法人水輪ナチュラルファーム代表取締役／(財)いのちの森文化財団 副代表理事

第39回 善光寺参道と中心市街地のWi-Fi計画 平成24年10月25日
講師／俣田 達男さん NTT東日本 長野支店長

第40回 しなの鉄道長野以北延伸と営業戦略 平成24年12月6日
講師／山田 隆さん しなの鉄道(株) 専務取締役

第41回 自然との共生 平成25年2月28日
講師／藤岡 牧夫さん イラストレーター・絵本作家

第42回 花は人を育てる 平成25年4月9日
講師／矢澤 秀成さん 園芸研究者/ながの花と緑そして人を育てる学校校長

第43回 人と組織の笑顔の創造 平成25年5月31日
講師／近藤 京子さん カウンセラー/NPO法人「わくわく志事研究所」所長

第44回 信州の分水嶺 ～山と川と里～ 平成25年8月22日
講師／栗田 貞多男さん 写真家

第45回 長野市の魅力と不動産取引の発展性 平成25年11月20日
講師／鴨志田 明弘さん 野村不動産アーバンネット株式会社 企業不動産部専任部長

第46回 地域におけるバイオマス活用について 平成26年1月29日
講師／天野 良彦さん 信州大学工学部物質工学科教授

第47回 AC長野バルセイロ ー私のチームマネジメントについて 平成26年3月3日
講師／美濃部 直彦さん AC長野バルセイロ監督

第48回 わたしにとってのボランティア 平成26年4月16日
講師／丸田 勉さん 脚本・演出家 森の家 林りん館館長

第49回 金沢の未来と長野へのエール 新幹線で結ぶ金沢と長野の絆 平成26年5月26日
講師／浅野 邦子さん 株式会社 箔一 代表取締役会長

第50回 取材を通してみた長野の魅力 ～長野をもっと元気に!～ 平成26年10月8日
講師／平沢 幸子さん 長野朝日放送 アナウンサー

第51回 チームマネジメント 平成27年1月19日
講師／本田 美登里さん AC長野バルセイロ・レディース監督

第52回 本物のおもてなし ～加賀屋の経営理念とビジョン～ 平成27年3月17日
講師／小田 與之彦さん 株式会社加賀屋 代表取締役社長

第53回 地域の元気をつくる「成長企業」は、ここが違う!～地方の中規模企業が成功するための法則とは?～ 平成27年7月1日
講師／廣井 紀文さん 株式会社ディーテス 代表取締役社長

第54回 長野から宇宙へ! ～ローカル企業のチャレンジ～ 平成27年8月25日
講師／羽生田 豪太さん 株式会社羽生田鉄工所 代表取締役

第55回 食を通じて発見 知られざる長野の魅力! 平成27年10月8日
講師／中島 麻希さん 1級フードアナリスト

第56回 摩訶不思議!長野の神社の靈感の世界 平成27年11月17日
講師／齋藤 安彦さん 宮司

第57回 大河ドラマ「真田丸」の舞台裏 ～撮影を通して見た信州の魅力～ 平成28年4月2日
講師／屋敷 陽太郎さん NHKチーフプロデューサー

第58回 真田丸の時代を語る ～時代考証の舞台裏 平成28年7月2日
講師／平山 優さん 歴史研究者

第59回 寺町商家の運営で気づいた*食。の力 平成28年8月30日
講師／西村 知子さん 寺町商家運営アドバイザー

第60回 地域から社会を変えよう! 行動する人の集まる港CREEKS 平成28年11月11日
講師／広瀬 毅さん 株式会社CREEKS 広瀬毅建築設計室代表

第61回 長野バルセイロ ー今シーズンの目指すチームづくり 平成29年3月13日
講師／浅野 哲也さん AC長野バルセイロ監督

第62回 輝く女性の活躍で長野県の企業を更に魅力的に! 平成29年5月30日
講師／中島 恵理さん 長野県副知事

第63回 信州は橋の都 千曲川と犀川に架かる名橋／日本一美味しい飯山のお米 平成29年7月19日
講師／服部 秀人さん 信州・橋の日推進協議会専務理事/エコファーマー

第64回 少子高齢化時代の長野市を考える ～行政の政策現場から見えるもの～ 平成29年8月23日
講師／平尾 勇さん 長野県観光機構エグゼクティブ・プロデューサー (前松本市商工観光部長)

第65回 長野県を元気に! メンタルヘルス(心の健康)からの大きなヒント! 平成29年9月21日
講師／野池 裕子さん ダイヤモンド・セルフ長野ファースト 代表・講師

第66回 陶芸の楽しみ 平成30年3月23日
講師／愛甲 宏明さん 炭平コンピューターシステム株式会社 代表取締役社長

第67回 話すって難しい? 平成30年4月23日
講師／坂橋 克明さん フリーパーソナリティー

第68回 中世善光寺如来堂東向き 平成30年7月5日
講師／宮下 秀樹さん 株式会社守谷商会 執行役員、国立長野高専客員教授

第69回 これからの長野における大学教育 ～人生100年時代の生き方と学び方～ 平成30年8月23日
講師／金田一 真澄さん 公立大学法人 長野県立大学 学長

第70回 広域景観から見た善光寺 ～山岳信仰と世界意識～ 平成30年9月26日
講師／菅本 正治さん 長野県立歴史館 館長

第71回 劇場が街を変える 平成30年11月30日
講師／山本 克也さん 長野市芸術館 総支配人

第72回 早春のマンデー・ジャズ・ナイト 平成31年3月11日
出演 /AO VIVO(アオ・ヴィーヴォ)・竹内 浩一・中川 雅紀・山極 おーじ優子・長谷川 裕晃・中田 寿寛



NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

〒380-0834
長野市大字鶴賀問御所町1289-1丸本ビル2F
TEL.026-235-7911 FAX.026-235-6166
www.nupri.or.jp
e-mail:nupri@nupri.or.jp

W a i - g a y a s a l o n n e w s - l e t t e r

わいがや サロン

通信

Vol. **73**
2019.4



♪聳ゆる山はいや高く 流るる川はいや遠し 「信濃の国」歌詞1番より

NUPRI
Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人 長野都市経営研究所

第73回

100年前に信州がめざしたもの ～県歌「信濃の国」に垣間見る～

講師／山浦 直人さん 土木・環境しなの技術支援センター理事、長野県立歴史館客員学芸員

■座長：岩野 彰 場所／NUPRI事務所

4月25日(木) 18:00～20:00

平成の元号も残すところ数日となった宵のわいがやサロン講師はNUPRI「ここ掘れ！長野探検隊」で橋の案内人も務めていただいている山浦直人さんでした。山浦さんが考える、100年以上にわたり「信濃の国」が愛唱され続けてきた理由とは――。

土木建設に携わり長野県内を歩くなか、「信濃の国」を歌う場面によく遭遇しました。この歌には居合わせた人たちを一つにさせる力があるようです。

退職後、「信州の土木遺産を訪ねるツアー」講師や「信州の土木 魅力のマップ」「久米路橋カード」制作に関わり、「信濃の国」の歌詞の時代背景をより深く知れるようになったので今日のテーマにさせていただきました。

長野県は日本の東？西？

本州をななめに突っ切っているフォッサマグナの西縁(糸魚川―静岡構造線)の左(西側)が古い地質、右(東側)が新しい地質となる断層です。この断層が東日本・西日本の境界といわれていますが、長野県は境界線を跨いで広がっているのが厄介です。

例えば歳取り魚――松本以南がブリ=西日本(文化)、以北がサケ=東日本(同)！かと思えば明治になって入って来た電気のヘルツ数でいえば長野県は西日本？JRは？高速道路は？この間までやっていた朝ドラ舞台のカップ麺会社は県民の嗜好を分析し東・西日本版の味を作り分けているそうですが、長野県はどうかというところ…東。そういう立ち位置にあるのが長野県なんです。

信濃の国

加賀の国の殿様は？と問われれば皆すぐ「前田」と答えられるのは加賀藩のエリアが広いからです。では信濃の国の殿様は？北から飯山、松代、上田、小諸、松本…木曾は尾張が治めていた、とてもじゃないがすぐに言えません。十余藩が分立し、幕府領も細切れに組み込まれて複雑な所領構成だったところに明治維新。藩などがそのまま「県」に移行し、その後、複雑な過程を経て「長野県」が成立。県名として採用された「長野」は藩名ではなく村名だったことから、その名が浸透するのになかなか時間がかかった。たびたび分県論が起きたが、その論を抑えたのは、もともとここは「信濃国」であり、「信州」なのだという意識がはたらいたと言えましょう。

さて、多くの県民が愛唱してきた「信濃の国」は6番まであり、1番2番：地理地形、4番：名勝地、および5番：人物、は地域バランスで選定されています。しかし、3番：産業における養蚕・製糸すなわち蚕糸業への文言、力がこもっていますよね。また全体のまとめとなる6番では、なぜ県外である碓氷山・トンネル、汽車の道をうたったのか？

明治になった信州で起きていたこと

子どもの頃はまだ家で、お蚕さんを飼っていました。季節になると2階は畳を上げて蚕棚になり、階下で寝ていても桑の葉を食む音が聞こえてきた[会場：領く参加者も]。蚕は四六時中、新鮮な桑の葉を食べ続け、やがて繭を作り、それが生糸として日本の外貨獲得の大半を生み出し、かつてなく農家を潤した。`お蚕さん、`お蚕様、と尊称したのも分かります。明治期、上田の桑畑が色分けされた図を見ると、どれほど養蚕が盛んで、蚕糸業の勢いのすさまじかったこと、想像に難くありません。

江戸末期の横浜開港当初、日本の生糸生産は1位は奥州で半分弱を占め、2位上州・3位信州はそれぞれ20%弱だったのが、数年後の明治初期には奥州と上州が逆転、信州3位。明治12年以降は信州が1位になる、その裏には生産工程の変化がありました。

～産業・交通革命～

江戸から明治初めまで生糸を練るのは人の手、かつ家内工業だったのが工場での`諏訪式、と呼ばれる器械製糸に変化したことが生糸生産`信州1位、の要因と言っているかもしれません。有名な富岡のフランス式は設備費が高く民営工場では普及しなかったのです。繭は県外からも大量に購入。蚕糸業の近代化を支えるために必要だったのが交通・流通の基盤整備でした。

交通・流通でよく取り上げられるのが鉄道ですが、大量の生糸を運ぶためには国の施策である鉄道が開通するのを待ってなどいられない状況―100年前の信州人は道路の整備を追い求めました(`道路県令、と呼ばれた大野誠の力も大)。お陰で中山道最大の難所・碓氷の峠は旧国道18号のかたちに、ほか県内各所街道もこの時代に馬車通行可に改修されます。ちなみにそれまで日本には馬車というものはなく、位の高い人は輿でした。

一方、鉄道建設は長野県に向かっの勾配の克服が難題でしたがアプト式等により開通を果たし、馬車とは比較できないほどの大量物資流通を可能にしました。県内各地においても中央線の辰野・岡谷ルートへの変更、駅の開設(全国初の請願駅：旧信越線大屋駅・吉田駅(現北長野駅))、今は廃線となった私鉄が張り巡らされたのもこの時期でした。

～動力革命～

手作業でなく工場となると動力が要ります。諏訪・岡谷の製糸工場は天竜川の水を水車で引き込み、須坂の製糸工場は用水を、やはり水車を動力源としました。また、明治中期に普及し始める電灯が家庭や工場にも設置(長野県の電灯普及率は全国10位!)、やがて電気は動力として使われる。米子(須坂)など県内各地の水力発電所建造にはやはり蚕糸業が関係していると言っても過言ではありません。

～情報革命～

さらに蚕糸業を進展させたインフラ整備に情報=電信と郵便網の発達がありました。

錦絵(明治期の浮世絵)を見ていて街路に立つ細長い柱は何だろう、電柱ではない、そうだ電信柱(でんしんばしら)だ。電信柱は日本の近代化を象徴する。だから錦絵に描かれているんだと発見し興奮したことがあります。世界に目を移すと、そのころ既にイギリスは植民地をつなぐ海底ケーブルを設置していました。わが国の電信開設(東京―横浜間)は明治2年ですが、翌年デンマーク国籍の会社がウラジオストクから長崎を経て上海に至る海底電信線(ケーブル)の敷設を日本政府に申請。外国に任せてはマズイ!明治政府は`自力、で横浜―長崎間の`陸上、電信線路開設を明治6年に完成させ、明治7年には青森まで、やがて列島を貫通させます(津軽海峡は海底敷設)。

明治政府は郵便も国家事業として取り組みます。明治5年に県下の主要都市で郵便業務が開始されるや、電信(有料電報)・郵便物取り扱い件数が蚕糸業の盛んな地域で急速に増加していること、また長野県が日本一の生糸生産県になると、電信発信の件数も地方としてはとびぬけていることを当時のさまざまな資料やグラフが語ります。生糸(原料)は県内外との取引、生糸(製品)は海外取引するべく主に横浜港に輸送、それら長野県の民間事業は同時期に電信・郵便網整備という情報伝達革命があったことによって支えられていたのです。

100年前の長野県の人々は、地形等さまざまな制約があっても、努力と日々の営みの積み重ねによって時代のうねりを乗り越えていました。「信濃の国」が歌い継がれているのは、そうしたことに共感するからでしょうか。

講演後、「再び「信濃の国」を作詞するとしたら、特に3番に誇ってうたえる産業は…」「学校では時間切れと称して近代史を教えない(教わらない)のは…」等々、意見が交わされました。

三木曾の谷には真木茂り
諏訪の湖うみには魚うお多し
民のかせきも豊かにて
五穀の実らぬ里やある
しかのみならず桑とりて
蚕飼い(こがいの業の打ちひらけ
細きすがも軽か(か)からぬ
国の命を繋ぐなり
六五妻はよし日本武やまとたけ
嘆き給いし碓氷山(うすい)やま
穿(う)がつ隧道(トネル)二十六
夢にもこゆる汽車の道
みち一筋に学びなほ
昔の人にや劣るべき
古来山河の秀(ひ)じてたる
国は偉人のある習い

「信濃の国」：明治32年(1899)浅井列(きよし)が地理教育唱歌として作詞。昭和43年(1968)県歌に制定



明治期の信州、例えば上田で桑畑(緑色)はこんなにも占めていた!「上田：絹の街保存会報告書」よりの図



明治26年(1893)、信越線碓氷第三橋梁(めがね橋/国重要文化財)が開通



「明治十三年御巡幸松本御通図(部分)」(長野県立歴史館所蔵)に電信局と電信柱が描かれている

